

## イランの核研究は世界平和の脅威になるか？

イランの核開発をめぐる国際的な緊張が高まっている。国際原子力機関(IAEA)が2月4日国連安全保障理事会にイラン核問題を審議要請(付託)する決議を採択、イランが対抗してウラン濃縮活動を再開したためだ。欧米はイランが核兵器開発を狙うと見なすが、イランは原子力



の「平和的利用」を訴え、先進国の「原子力の独占」に対する途上国の不満を代弁している。

上)ウラン濃縮継続を表明するイラン大統領アハマディネジャド

### 02年8月イランの秘密核研究が発覚

イランは核兵器の拡大を防ぐNPT(核拡散防止条約)に加盟している。NPT加盟国は、原子力を平和利用する「奪い得ない権利」(第4条)があり、軍事転用しないようIAEAの査察という監視を受けてきた。が、3年半前にイラン反体制派の告発から、IAEAへ申告せずにイランがウラン濃縮を秘密に研究したことが発覚。他にも数々の申告漏れが見つかって、欧米諸国の圧力でウラン濃縮を停止してきた。結局、話し合いが決着せず、イランは作業再開を発表した。ただし、IAEAの通常査察を受けると言っている。

イランは核兵器用の高濃縮ウランを持っていない。仮に遠心分離機をフル稼働させても核兵器1個分の核物質を作るのに5年かかるようだ。その意味で、イランの動きは差し迫った脅威でない。核兵器開発の疑惑が多いのは事実だが、IAEAも断定まではできない段階である。

### 原発と核兵器はウラン濃度が違うだけ...

ウラン濃縮はウラン 235 の濃度をあげる作業。天然ウランには核分裂性のウラン 235 が 0.7%しかなく、99%は核分裂しないウラン 238。このため、原子力発電や核兵器に使うにはウラン 235 の濃度を高めねばならない。遠心分離機で気体状ウランを回転させ、重いウラン 238 と軽いウラン 235 を徐々に分ける方法をとる。原発の燃料は 235 の割合が 3~5%の低濃縮ウラン、核兵器には 90%以上の高濃縮ウランが必要。原子力は、平和利用(原発)と軍事利用(核兵器)がつながっている技術。軍事への転用を監視 = 査察するのが、国際原子力機関(IAEA)の役目である。

### NPTで核兵器開発が止められない

いま核兵器技術は大きく世界に広がった。NPTに加盟しIAEAの査察を受けながらも、北朝鮮やイラクが平和利用を隠れみのにして核兵器開発を行っていた。そこから、イランがウラン濃縮技術を得ると、核兵器生産への転用を阻止できないから技術を持たせないと、欧米諸国は考えている。さらに、イランには核の「平和利用」を主張する必然性が乏しい、世界第2位の石油埋蔵量、世界第4位の石油生産量の国だから。

### イラン対アメリカの根強い対立

特に圧力を強めているのがアメリカで、1979年のイランによるアメリカ大使館占拠事件以来、イランと深刻な対立関係にある。他方でイランは、アメリカがIAEAを政治的意図で動かしていると見て、NPTの条約上の権利を強く主張。

いまアメリカはインドに核平和利用への積極的支援を約束した。インドはNPTに加盟を拒否、国際社会の反対を押し切って核兵器を保有した国である。つまり、アメリカはNPTに加盟するイランを核の軍事転用疑惑で非難するが、加盟せずに核兵器を持ったインドを支援する。これは、アメリカがインドを「特別扱い」することであり、「二重基準」となっている。しかし、イランが民主的な国家とは言えず、どのように行動するのが不安が大きいかとも事実なのである。

## ムハンマド風刺画への怒り

昨年9月20日、デンマークの最大紙ユランズ・ポステン紙がムハンマド(イスラム教教祖マホメット)の風刺画12枚を掲載。イスラム諸国の謝罪要求をデンマーク政府が拒否する中、2月に風刺画が欧州各国で転載され、世界各地でイスラム教徒の抗議デモを引き起こした。4日にデンマーク大使館が放火され、ナイジェリアでは今キリ



上) ユランズ・ポステン紙に掲載された風刺画の一部

スト教徒との対立が激化、死者が百人出た。パキスタンでは反欧米のデモが激化している。風刺画は、当新聞社が40名の漫画家に「ムハンマドはどう映るか?」を描くよう依頼し、12名が応じたもの。編集者としてはイスラム教関連のイラストを「自己検閲する傾向」への問題提起だったが、侮辱と感じたイスラム諸国首脳がデンマーク政府に対して、日刊紙に謝罪を求めるように要求。これに、デンマークのラスムセン首相は「表現の自由はデンマークの民主主義の根幹であり……政府は報道機関に影響を及ぼす手立てがない」と答え、怒りを募らせてしまった。

### 偶像崇拝禁止と「表現の自由」

イスラム教は、貧しい文盲孤児であった預言者

ムハンマドが40歳の時に、天使ガブリエルによって啓示を受けて始まった宗教。多神教徒が偶像を崇拝する愚かさを説き、禁止する(下)。ムハンマドも同じく図像化が許されない。さらに、今回の風刺画はムハンマドをテロリストと描いたので、イスラム教徒が憤激したと言えるだろう。

こうした動きに対し、欧米の反応が分かれている。30カ国以上の新聞社が風刺画掲載を「表現の自由」と見なして、風刺画を転載。その後、ポステン紙はイスラム教徒を傷つけたと謝罪したが、



風刺画掲載自体は正当と主張。英国では、「表現の自由」を守ったとしてポステン紙が賞に選ばれた。

右)放火されたシリアの首都ダマスカスのデンマーク大使館

### 表現の自由と他宗教への寛容

一部新聞社の対応について、国連のアナン事務総長や米英仏の政府首脳が批判を表明している。アナン事務総長は「暴力的行為は容認できないが、侮辱されたイスラム教徒の気持ちは理解できる……表現の自由は責任を持って行使されるべきで、憎悪の扇動や信念を侮辱する口実にしてはならない」と述べている。自由と責任の関連を考えさせられる事例だろう。

### 豆知識講座: 偶像崇拝ってな~に?

木や石の像に超越的な力が宿ると信じて崇拝すること。人智を超えた存在である「神」を有形のもので表し、神そのものでなく偶像を信仰し崇める行為を偶像崇拝と呼ぶ。偶像を否定する宗教によって、軽蔑的な意味で使われる言葉。仏教では仏像の下に信仰をすることを認める。しかし、一神教であるイスラム教やキリスト教などは「生気の無い物から作られた偶像に神は宿らない」と禁止する。ただし、キリスト教では、イエス像(聖像)は神そのものでないので認めると、解釈している。